

サフラン栽培を通じた 休耕地活用と 地域コミュニティの 活性化

実施者:社会共創学部 学生3名
(指導:笠松浩樹准教授)

課題とプロジェクト内容

解決したい課題:耕作放棄地の増加・休耕地の拡大
地域コミュニティ活性化

プロジェクト内容:「世界一高価なスパイス」とも
称されるサフラン栽培に着目
休耕地の有効活用と、地域住民と学生が繋がる基
盤の構築を目指す



活動プロセス

現地調査 (5月)
先進事例「多田だんだんプロジェクト」

冬の農閑期を活用したサフラン栽培の
事例について学習
今後の活用方法について話し合い

実践・(10~12月)
360個の球根を購入
室内管理にて開花可能であることを確認

収穫・植え付け (12月)
約2gのめしべを収穫
「田力本願」様協力のもと休耕地に植え付け



気づきと今後の展望

収穫・選別作業は多世代の集う「地域コミュニティのハブ」
として機能する可能性を持つ。次回以降、学生と地域の方が
ともに参加できる仕組みを検討

収益化を目指すには大規模化や作業効率化が必須。また、
エディブルフラワー（食用花）としての高付加価値化等にも
検討の余地がある。

次年度への継続:春の掘り上げ、夏季の乾燥管理を経て、地
域資源を有効活用するサイクルを継続。持続可能な地域活性
化モデルの確立を目指す。